

平成 29 年度愛知県栄養教諭・学校栄養職員研究大会

平成 29 年 8 月 8 日（火）、ウィルあいちにて研究大会が開催されました。

式典

愛知県教育委員会 保健体育スポーツ課 健康学習室 室長 黒沢正行様はじめ、県小中学校長会、公益財団法人愛知県学校給食会、愛知県高等学校給食研究協議会、愛知県特別支援学校長会等、多くのご来賓のご臨席をいただきました。



地区別研究発表

知多地区（東海市・知多市・阿久比町）

「自ら野菜を食べようとする児童の育成」

—学校・家庭・地域と連携した活動を通して—

給食に使われている野菜を題材に授業を行ったり、野菜の栽培や調理などの体験活動を行ったりした。また野菜についての情報を「新聞」の形で定期的に発信した。家庭や地域を巻き込んだ計画的、継続的な指導の結果、野菜を身近に感じたり、進んで食べようとしたりする児童の割合が増えた。



西三河地区（西尾市）

「日本の食文化を知り、自分の食生活に生かそうとする子の育成」

—学校・家庭と連携した食に関する指導—

総合的な学習の時間、学級活動、給食の時間、家庭科等を活用し、米の栽培、米の栄養、給食の配膳、オリジナルみそ汁作りなどを、教科・領域の「クロスカリキュラム」で指導した。また試食会や配布資料を通して、家庭への啓発も行った。児童が和食を身近に感じ、自分の食生活を見直すきっかけとなった。



指導講評

愛知県教育委員会 保健体育スポーツ課 健康学習室 主査 稲留雄一様

知多地区、西三河地区の発表について、次のような指導講評をいただきました。

知多地区

「長期的なスパンでの取組」「地域を巻き込んだ取組」という太い柱をしっかりとって研究を進められたのはとてもよかった。実践の軸、研究の中心を明確にして取り組むことで、研究がさらに発展的で実態に根ざしたものになっていた。

西三河地区

「日本食」をテーマに総合的な学習、家庭科、その他各教科の領域とのカリキュラムをうまくつなぎながら実践に取り組んだ。クロスカリキュラムを組んでいく中で栄養教諭のコーディネーターとしての役割が大変重要だと感じる実践だった。

研究をまとめる上で大切なことや、地区で研究を進めていく上で有効な方法についても、ご助言をいただきました。そして最後に、「『食』は分かっているけどやめられないことへの挑戦である。それを実践したり習慣化したりするのは時間のかかることだが、子どもたちが親になった時に、自分の子どもに伝えていけるとよい。未来の子どもたちの心身を作る大切なことなので、検証を深め、指導してほしい。」とのお言葉をいただきました。



ミニ講演会

「シニア海外ボランティアの活動について一第二の人生の輝き方」と題して、JICAボランティア 山森美也子様によるミニ講演会がありました。JICAボランティアとしてスリランカやモロッコで経験された貴重な話をいただきました。



食育講演会

演題「学習指導要領の改訂とこれからの学校の食育」

講師 文部科学省 初等中等教育局 健康・食育課 食育調査官 横嶋剛様

「中教審答申と学校指導要領の改訂」、「食育基本法」や「栄養教諭制度」などの国の動向について分かりやすく教えていただきました。また、平成29年3月に文部科学省から発行された「栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育～チーム学校で取り組む食育推進のPDCA」について、作成した意図や活用方法などを具体的な例をあげて教えていただきました。



さらに、栄養教諭がひとりで何かやろうとしても難しい。人と人との関係性を大事にしてほしい。人、学習内容、学習の場のつながりがあって、学校における食育がしっかりつながる。それを全体計画に反映させて、食育をすすめてほしいというお話がありました。

展示・ポスターセッション

研究発表地区をはじめ、各地区の教材や取組の紹介、「愛知を食べる学校給食の日」のリーフレット、本協議会が作成した食育資料等が展示されました。今年度も、ポスターセッションを行い、メモをとったり、興味深く質疑応答したりする会員の姿が見られるなど盛況でした。

